特集

命をつなぐ「119番」

まちの救命救急

休日に家族で過ごしている時や仕事で車を運転している時など、緊急事態はいつどのような場面でやってくるか分かりません。私たちの生活の中で耳にする救急車のサイレンの音も、身近なようで救急の実態や隊員たちの日々の活動を知る人は少ないのではないでしょうか。

今月の特集では、一刻を争う状況に置かれた命と向き合い、日々活動を続ける救急隊員にスポットを当て、命をつなぐために私たちに何ができるのかを考えます。

救われる人から救う人へ。同じ思いを共有した人たちの行動が、目の前の大切な命をつなげます。

119番通報に備えるまちの救急隊 年間約170回の救急出動

清里分署には17名の隊員が在籍し、一秒でも早く傷病者のもとへ駆け付けられるよう、24時間365日、緊急通報に備えています。119番通報を受け、現場に駆け付ける救急車には、3人以上の隊員が乗車しており、そのうち1人以上が医療行為を行える救急救命士です。

清里町には、昨年度導入した最新の救急車が1台、斜里地区消防組合内では斜里町に3台、小清水町に1台の計5台あり、傷病者が複数いる場合などは、他町から応援の救急車が出動する場合もあります。

全国の救急出動件数は、高齢化とともに年々増加しており、令和4年の出動件数は、集計開始以来最多となりました。町の過去10年間の救急出動件数（図1）の推移を見てみると、ほぼ横ばいとなっており、平均すると年間約170件、2日に1回程度出動していることになります。令和4年における、119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間は、平均で9・2分となっています。

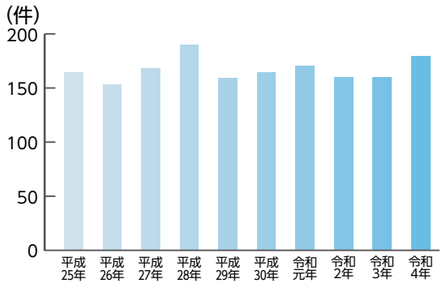
データで見るまちの救命救急の実態

令和4年の救急搬送のうち、年齢別では65歳以上の高齢者の方の割合が7割を超えています。

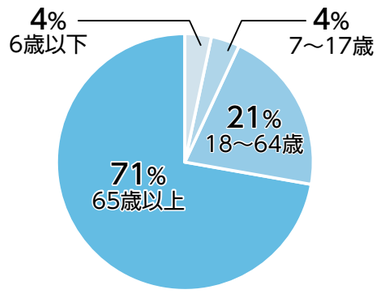
傷病別では、医師が病院到着時に判断した傷病の程度を示しており、重症は3週間以上の入院が必要なもの、中等症は入院が必要なものの重症には当てはまらないもの、軽傷は入院不要のものとなっています。

中等症が最も高い割合を占めている一方で、救急車を呼ぶ必要のなかった「不搬送」の割合が6％、「軽傷」の割合が32％となっており、急を要しない方の119番通報によって、真に急を要する方への対応が遅れてしまうことも考えられます。

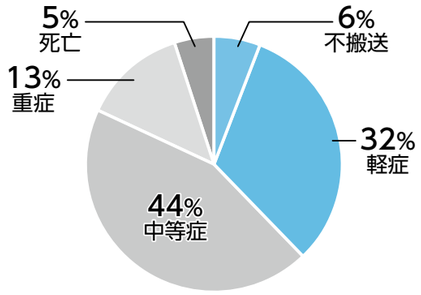
なお、搬送先の病院については、出動した隊員が傷病者の状態を確認し、症状に応じて選定するため、傷病者の意向やかかりつけではない病院へ搬送することもありますので、ご理解をお願いします。



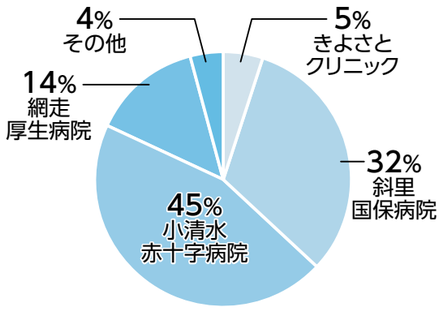
■図1　過去10年間の緊急出動件数



■図2　年齢別搬送割合（令和4年）



■図3　傷病別搬送割合（令和4年）



■図4　病院別搬送割合（令和4年）

身近な人が倒れたら…いざという時のために

目の前で大切な家族が倒れたり、事故現場に遭遇すると、不安や緊張から落ち着いて話すことができないことが多いです。その場合でも、119番通報に対応する通信指令員からの問いかけには、落ち着いてお答えください。

また、通信指令員と通報中でも、救急隊員は速やかに現場へ出動できるよう準備を進めていますのでご安心ください。

119番通報すると、「火事か」「救急か」「救助か」を確認します。傷病者がいる場合、傷病者のそばから通報し、できる限り詳しく通信指令員に容体を伝えることが重要です。

119番通報の基本的な流れ

1 名前と居場所の確認

はじめに、具合の悪い方の名前と居場所をお聞きします。場所が分からない場合は、近くの目印となるものを教えてください。スマートフォンなどの地図アプリから居場所を特定することも有効です。

2 具合の悪い方の症状の確認

次に、具体的な症状などをお聞きしますので、誰が、どのようにして、どうなったのかをお伝えください。医療機関への速やかな受入連絡のため、かかりつけの医療機関や病歴などを聞き取らせていただく場合があります。

3 応急手当や心肺蘇生法の実施

応急手当の必要がある場合は、通信指令員の指示に従って行動してください。呼吸をしていない場合などは、心肺蘇生法を指示することがあります。スマートフォンであれば、スピーカー機能を活用し、両手を使ってより効果的な応急手当ができます。

4 通報者の名前と連絡先の確認

最後に、通報された方の名前と連絡先（電話番号）をお聞きします。通話が途切れたり、追加の情報が必要な場合に連絡することがあります。

命をつなげるための3つのお願い

1 緊急通報する際は、必ず「119番」で通報を

清里分署の一般電話（25−2110）ではなく、必ず「119番」で通報してください。一般電話では位置検索システムが使用できないほか、出動対応するはずの隊員が電話を取ってしまい、出動の遅延につながります。

2 救急車の緊急走行時は、必ずサイレンを鳴らします

119番通報の際に「できればサイレンを鳴らさないで来てほしい」とお願いされることがありますが、これは対応できません。法律により緊急走行の際はサイレンを鳴らし、かつ赤色の警光灯をつけなければならないと定められているためです。

3 通報前に、本当に救急車が必要か落ち着いて考えて

「救急車を呼べば早く診てもらえると思った」、「タクシーで行くとお金がかかるから」などの理由で救急車を呼ばれると、その間の本当に命の危機が迫っている方に救急車を手配できません。緊急性がなく、ご自分で病院に行ける場合は、自家用車などで受診いただくようお願いします。

高規格救急車の装備を紹介

町には昨年、最新の高規格救急車が導入されました。高規格救急車には、より高度な救命処置が行えるよう、さまざまな資器材が積載されています。また、従来の救急車よりも揺れが軽減されているほか、人が立ったまま乗れるよう天井が高くなっているため、救命率の向上が期待されます。

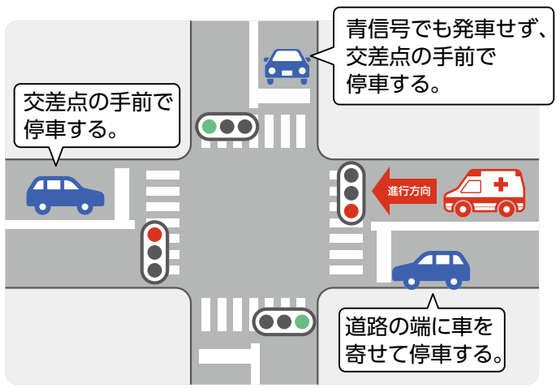
1. 高規格救急車
2. **ベッドサイドモニター**（心電図や血圧、血中酸素濃度などを測定する。継続的なモニタリングにより、容体の変化に素早く対処することが可能）
3. **電動ストレッチャー**（電動油圧昇降システムを採用。ボタン操作で最低36㎝から最高105㎝までの無段階昇降が可能）
4. **自動心臓マッサージ器**（体に装着し、自動で心臓マッサージを行う機器。移動しながら処置できるので、救急隊員がほかの救命処置に専念することができる）
5. **コンビツール（上）セーバソー（下）**（倒壊建物からの救助や交通事故時のドアの開放、鉄パイプの切断などが可能な救助機器。コンビツールは先端のアームを開閉して「切る・開く・つぶす」、セーバソーは切断に特化している）

6~8. **各種キットが入ったバッグ**（交通事故などに対応するための固定器具や止血用品などが入った「外傷バッグ」や、自宅や救急車内での出産に対応するための用品が入った「産科バッグ」など、状況に合わせて適切な処置が行えるよう、各種バッグに必要な資機材がまとめられている）

救急車などの緊急走行にご協力を

救急車がいち早く現場に到着するためには、車を運転している方の協力が必要不可欠です。119番通報を受けて現場に向かう際や、患者さんを病院に搬送する際の走行を「緊急走行」といい、赤色灯を点灯させサイレンを鳴らして走行します。

交差点以外の道路で緊急車両が接近してきたときは、道路の左側に寄って徐行をお願いします。交差点付近で緊急車両が接近してきたときは、交差点に進入せず、道路の左側に寄って一時停止をお願いします。



増加する登山中の119番通報 山岳救助要請に対応するために

救急隊が駆けつけるのは、地上だけではありません。近年増えているのが、斜里岳登山者からの119番通報です。

アウトドア・登山ブームの影響もあり、令和4年の全国の山岳遭難発生件数は3，015件で、統計の残る昭和36年以降過去最多となりました。斜里岳においても、過去5年間で13件の山岳救助要請があり、清里分署では登山者からの119番通報にも迅速に対応できるよう、毎年斜里岳での山岳救助訓練を行っています。

斜里岳登山者からの119番通報があった場合は、関係機関と連携し、必要に応じて警察や消防防災ヘリコプターによる救助要請を行います。ヘリコプターが現場に向かう場合でも、悪天候により現場に近づけないこともあるため、清里分署の救急隊も同時に出動します。ヘリコプターでの救助が可能な場合は、要救助者を吊り上げ可能な地点まで搬送するほか、高低差のある場所や急斜面などでヘリコプターが近づけない場合は、ロープレスキューと呼ばれる技術を駆使して搬送したり、専用の器具を使って要救助者を背負って下山することもあります。方法はさまざまですが、現場の状況を総合的に判断して、迅速かつ安全に医療機関へ搬送できるよう訓練を行っています。

沢の多い斜里岳での救助は隊員の安全確保も重要。訓練が欠かせない。

眼下に清里町の街並みが広がる斜里岳での救助活動訓練。

安全な斜里岳登山の心得

山岳救助の多くは、不十分な装備や体力的に無理な計画を立てるなど、知識や体力の不足などが原因で発生しています。安全に登山を楽しむために、次の点に留意するようお願いします。

■必ず登山届の提出を

行動予定や持ち物、緊急連絡先などを記載する登山届は、家族や職場の方と共有しておくことで、万が一の時に迅速な救助の手掛かりとなります。斜里岳に登る際は、事前に清岳荘（斜里岳山小屋）の登山届ポストへ提出しましょう。

■万全な計画と装備品の準備を

休憩時間を含め、余裕のある登山計画を立て、雨具や携帯電話、予備バッテリー、負傷時に備えた応急手当キットなど、万全な装備を準備し、なるべく複数人での登山を行いましょう。

■午後からの登山は控える

斜里岳は、沢登りが主体の山で斜度が急なため、昼頃に出発しても日没までに下山できないことがあります。なるべく早い時間から登山を開始しましょう。

［清里分署 職員インタビュー | Kiyosato Precient Interview］

先入観を持たず、目の前の命と向き合う

私たち救急救命士は、現場の最前線で大切な命を救うために、心肺停止や交通外傷といった具体的なシミュレーション訓練を重ね、119番通報に備えています。

現場では、応急処置や収容先となる病院の選定など、さまざまな判断が求められた場合に、決して固定概念や先入観を持たずに、明確な根拠を持って判断することを心がけています。

しかしながら、残念なことに傷病者の苦しみを完全に理解することはできません。バイタル（血圧や脈拍など）が正常でも、苦しそうな場合もあれば、その逆もあります。慣れない現場や緊急性の高い傷病者を目の当たりにすると、焦ってしまうこともありますが、現場で冷静な判断を下せるよう、この町で救命士として成長したいです。

自分が行った活動で、傷病者の状態が改善された時や、後日お礼を言われた時など、命と向き合う仕事をしていることに大きなやりがいを感じます。大切な命を守るため、119番通報を行う際や、救急隊が到着した際には、落ち着いて傷病者の状態を教えていただきたいと思います。

斜里地区消防組合　清里分署
救急救命士　佐々木　竜佑 さん

声の情報だからこそ、丁寧に寄り添う

通信指令員は、119番通報を最初に受ける窓口になります。通報内容から現場の状況を判断し、消防隊や救急隊に出動命令を行うほか、ドクターヘリや道警ヘリと連携して対応することもあります。また、清里分署の救急車が出動中に新たな出動要請が来た場合、斜里消防や小清水消防へ応援の要請をすることもあります。

通報者は慌てていることが多いため、まずは落ち着かせて相手に寄り添いながら、迅速かつ正確に情報を聞き出すことを心がけています。観光客などからの通報で現在地が分からない場合や、交通事故などで多数の負傷者が発生し、情報が交錯している場合など、正確な情報収集が難しい場面もあります。どのような通報が来ても落ち着いて対応し、通報者が安心して状況を伝えられるよう、日々話術を磨いています。

私たち通信指令員は、直接現場に出動することはできませんが「大切な命を守りたい」という思いは救急隊員と同じです。電話の向こう側にいる通報者を安心させ、正確な情報を隊員と連携することで、1秒でも早い出動に繋げたいです。

斜里地区消防組合　清里分署
通信指令員　小笠原　明博 さん

次に命をつなぐのは、あなたかもしれません

急な病気や事故などで、いつ119番通報する日が来るかは分かりません。

目の前で誰かが倒れた時に最善の判断をするためには、もしもの時を想定して心の準備をしておくことが大切です。

特に、その場に居合わせた方と救急隊の連携は、命を救うための重要な鍵となります。

救急隊が到着する前に、その場に居合わせた方が救命処置を行った場合は、行わなかった場合に比べて、その後の社会復帰率に2倍以上の差があることが分かっています。

また、心停止の場合は救命処置をされずに10分が経過してしまうと、その後の救急隊の対応がどんなに優れていても、ほとんど救命できないといわれています。

もしもの時に大切な命を救うのは、その場に居合わせたあなたです。

私たち一人ひとりが、目の前の命をつなぐ重要な役割を担っているのです。

清里消防団　団員募集

消防団は、町の非常備の消防機関で、本業を持ちながら「自らの町を自ら守る」という精神に基づき、消防活動を行っています。

消火活動のほか、消防職員と連携し、救助活動や救護活動を行います。一緒に清里町を守りませんか?

聞いてみたいことや興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

■問い合わせ　斜里地区消防組合消防署清里分署　☎0152(25)2110

応急手当を学んでみませんか?

清里分署では各種救命講習を開催しています。45分間の入門コースから上級コースまで、参加者のレベルに応じた内容の講習が可能です。いざという時に大切な方を助けるために、心肺蘇生法やAEDの使用方法、応急手当の方法を学ぶことができます。職場だけでなく、少人数のグループなどの場合も対応していますので、開催をご希望の方はぜひ一度ご相談ください。

■問い合わせ　斜里地区消防組合消防署清里分署　☎0152(25)2110

例えばこのような場合に、ご利用ください。

- 赤ちゃんが夜中に熱を出したとき
- 病気・けがなどの健康相談・医療相談
- 育児・介護・病気で悩んでいるとき
- 不意のけがの応急手当て

きよさと健康ダイヤル24

24時間年中無休　通話料・相談料無料

0120-402-523

いつでもどこからでも、清里町にお住いの皆様が専用ダイヤル（通話料無料）でご相談できます。（非通知設定対応不可）救急車を呼ぶべきか迷った場合にもご活用ください。

「救急医療情報キット」を無料配付

町では、町内にお住まいの70歳以上の方や障がい者の方の安心・安全を確保するため、希望者に「救急医療情報キット」を無料で配付しています。ご希望の方は、下記へご連絡ください。

【救急医療情報キットとは?】

ひとり暮らしの高齢者の方などが、ご自宅での万が一の事態に備えるための道具です。救急医療活動に必要な氏名や生年月日、持病などの医療情報を記入した用紙を専用のプラスチック容器に入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておきます。救急隊員がかけつけた時、冷蔵庫からキットを取り出し、救命のためにその情報を活用します。

■問い合わせ　保健福祉課福祉介護グループ　☎0152(25)3847